

令和六（二〇二四）年度生 一般入学試験（前期） 国語総合

受験番号		氏名	
------	--	----	--

※ 答えはすべて解答用紙の決められた欄に記入しなさい。

問題Ⅰ 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

現代日本語でも、「気が利く」「気を利かす」「気が付く」「気を兼ねる」「気を配る」「気働きがある」「気配りをする」などと、相手の気持ちを推し量って行動することをほめる言葉があふれています。

こうした相手の立場になって物事をとらえるという思考様式は、人を指す呼び名にも現れています。たとえば、迷子になった男の子に大人が話しかける時は、「ア」「ア」「誰と来たの？」などと、その子自身になって、一人称代名詞「ア」で呼びかけます。英語だったら、二人称代名詞「イ」です。日本人は、相手に自分を同化する傾向が顕著²なのです。

いや、相手が人間でなくて、物である時にも、日本人はその対象物に自分を①します。たとえばノーベル文学賞を受賞した（A）の文章には、そうした日本人の思考様式をソニン³に感じさせてくれる名文があります。

彼の作品』 B（）の冒頭文は、「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。」

日本人なら、何のイワカン⁴もなくすらすらりと読め、トンネルを抜けたトタン⁵に眼前に広がる白一色の雪景色が見えてきます。でも、常に（ウ）を明確にする英語では、理解されにくい文です。なにしろ、（ウ）が現れていないのですから。

ですから、名翻訳家のサイデンステッカーさんは、こう英訳しています。「The train came out of the long tunnel into the snow country.」この英文を逆に日本語にしてみると、「汽車は長いトンネルを抜け雪国に出た。」です。日本語では消えていた「汽車」という（ウ）が全面に出てきてしまいます。

日本人からすると、自分を汽車に①させた、極めて日本的な表現^Aなのです。

（ 山口仲美 『日本語が消滅する』 ）

問一 傍線部1～5の漢字にはフリガナを付け、カタカナは漢字に直しなさい。

問二 （ア）（ウ）に適語を入れなさい。

問三 ①に入る適語を、本文中から書き抜きなさい。

問四 （A）に入る人名を次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 三島由紀夫 イ 芥川龍之介 ウ 川端康成 エ 夏目漱石

問五 (1) (A) (B) (C)に入る作品名を、漢字で答えなさい。

(2) また、同じ作者の作品の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 『このころ』 イ 『羅生門』 ウ 『高瀬舟』 エ 『伊豆の踊子』

問六 傍線部A「極めて日本的な表現」とは、「こ」ではどのような表現のことを指すか。わかりやすく説明しな

れ。

裏面に続く

問七 傍線部A「極めて日本的な表現」に当てはまる表現は、次の中のどれか。記号で答えなさい。

ア 「昨日、体が疲れていたのに、なかなか眠れなかった。」

イ 「昨日、パパが買ってきたお菓子は、おいしかった?」

ウ 「昨日、先生が宿題にした問題は、とても難しかった。」

問題Ⅱ 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

雨の多いロンドンでも、一八世紀半ばまで雨傘を差す人はいなかった。そんな中、雨の日に傘を差して町を歩き廻る姿が、『シヨナスのかさ』という絵本に活写されている。

雨天に傘――。ごく自然な光景に思えるが、傘は当時あくまで日よけの道具だった。古くは支配者の威を高め、近世以降は女性の装飾品として使われた。男性でありながら雨具として傘を使った実業家シヨナス・ハンウェイは嘲笑を浴びる。めげずに三〇年間差し続け、習慣を広めたという。

いまロンドンの傘事情はどうか。つてをたどり、在住二四年という日本人女性を尋ねてみた。「ロンドンっ子は驚くほど傘を差しません。レインコート派が多く、土砂降りでも傘なしで歩きます」。

ロンドン市民にとって傘は面倒なもの。横や下から霧雨が忍び込み、傘では防ぎきれない。「一日のうち①がある」と言われるほど天気が移りやすく、降ってもすぐ乾くという事情もあるようだ。

近年の国際調査によると、一人当たりの傘ホウ数³は日本が⁴本。⁵本の英国などを抑え、堂々たる世界一だった。なるほど、わが家の傘立てからはビニール製や折り畳み式が次々と出てくる。「いつこんなにか?」とあきれってしまう。

先週早々と雨の季節に入った関東甲信に続き、きのうは九州もツユ入りした。当たり前すぎて気にもとめなかつた傘にも、長きにわたる歴史あり。二七〇年も前のシヨナスのフントウに敬意を表し、さあ傘を手に出かけようか。

（『天声人語』二〇二二年六月十二日）

問一 傍線部1～5のカタカナを漢字に直し、漢字にはフリガナを付けなさい。

問二 傍線部A「シヨナス・ハンウェイは嘲笑を浴びる」とあるが、シヨナスが嘲笑を浴びた理由は次のように

説明できる。() ア () イ () に入る適語を、本文中より書き抜きなさい。

() ア () であった傘を、() イ () であるシヨナスが使い続けたから。

問三 傍線部B「レインコート派が多く」とあるが、「レインコート派が多」い理由を説明しなさい。

問四 ①に入る適語を次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 何度も夜 イ 夏と冬 ウ 昼と夜 エ 四季

問五 傍線部C「当たり前すぎて気にもとめなかつた傘にも、長きにわたる歴史あり。」について、次の各問に答えなさい。

(1)「当たり前」とは何か。それを端的に述べた箇所を、本文中より五文字以内で書き抜きなさい。

(2)「長きにわたる歴史」とあるが、本文中から読み取れる「歴史」を、古い順に簡条書きで簡潔にまとめなさい。